



人見せし世の一人一人の心もかこもり
 想ふはけのさうらふもさうらふ



繪入
 改書

童守吉状揃

四方は海嶼の水小

はくとももまきよ

あきかたうらも

あきまひ

積玉圓梓



○今川伊豫守貞俊の清和源氏の末裔あり四郎國氏民の孫あり父と國範と名々初名を貞世とて入道とて俊と号と駿河遠江兩國の太守あり文武兩道小達し和歌と善と足利義満將軍了俊とて九州の探題としあま堂と子息右衛門佐仲秋の為に制詞の條目あり今天下を渡り兒童の庭訓とるは是なり

今川伊豫守貞世之像

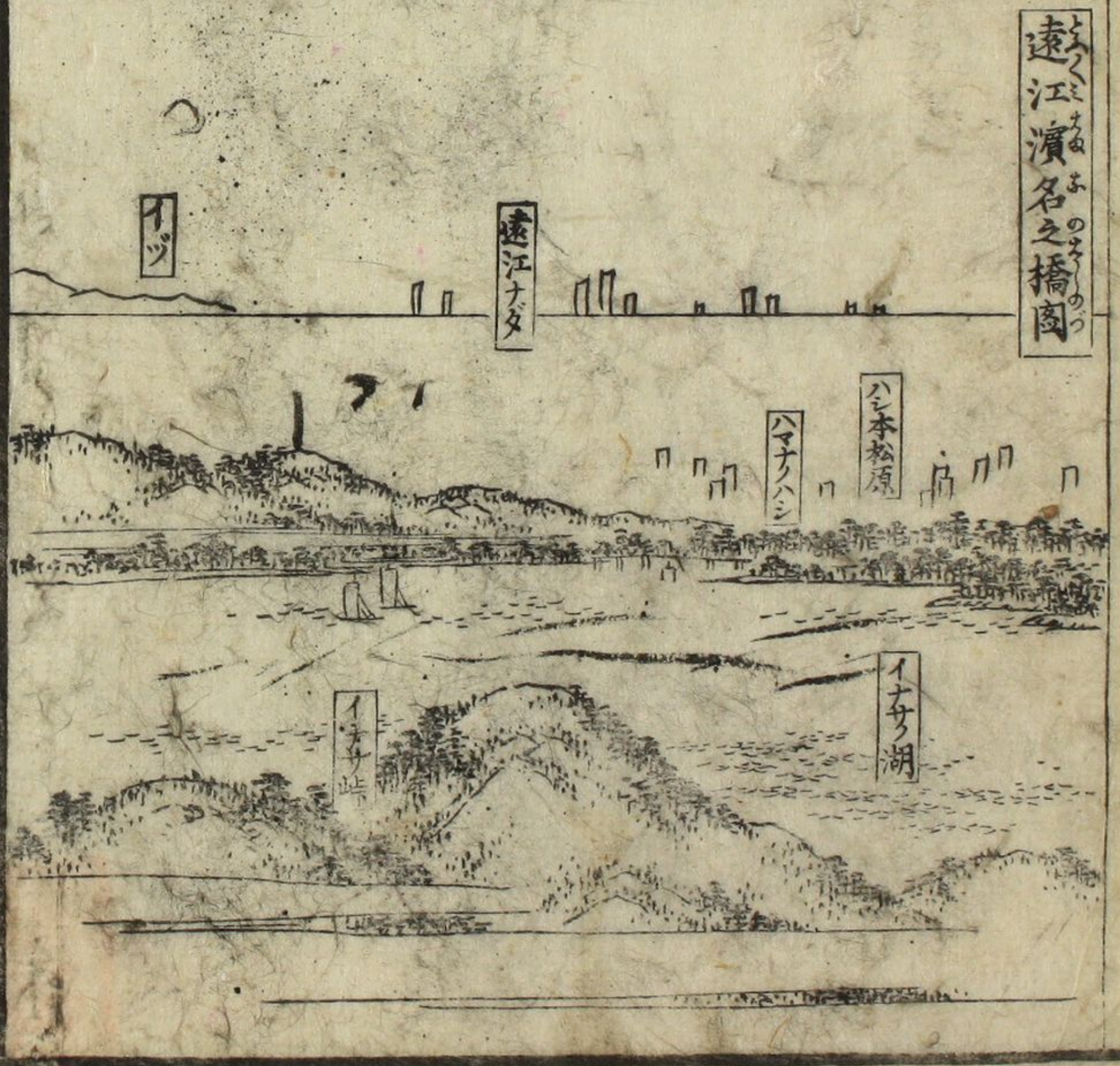


九曜文庫

○三代實錄元慶八年九月
 朔日遠江國濱名橋かゝる
 長五十六丈三尺 今の九十二間
五尺小ある
 高一丈六尺應永三年八月
 十日波荒て橋打中て明
 應四年荒井舞坂の間地
 折て海とあり同八年六月
 十日大地震て螺谷け海
 小はく爰と今切と云り
 橋破まで凡五百三十年
 餘るる

安政四戊午年等年數也

遠江濱名之橋圖



○本朝姓氏字盡
 い 今川 伊勢
 五十嵐 芋瀬 五十棲
 板垣 板倉 岩成
 伊藤 犬塚 稲葉
 飯沼 一色 石尾
 今城 稲垣 飯田
 石丸 五十川 伊庭
 生駒 今井 飯尾
 伊奈 井上 猪飼
 岩永 池田 猪股
 石川 稲毛 忌部

今川了俊討悪長
 仲秋制詞清
 不知文道而武道
 終之乃勝村事
 好鶴鷹道之志
 善之教事

間	高	葉室	長谷部	は	鹿野苑	ろ	負辨	岩代	石上	井伊	岩城
長倉	花房	服部	林	羽柴	鹿山	六郷	菴原	櫛原	市橋	池尻	磯貝
加川	蜂須賀	伴	馬場	泰	路熊	六角	乾	伊丹	石田	岩田	石堂

錦戸	12	蜂谷	土師	捺澤	橋本	畠山
蜷川	新田	原田	羽田	速見	芳賀	博多
鳩	西村	早川	畑	羽太	坊城	萩原



小曲に軍を遣はし
 明令に死を命ず
 大科に後を顧みず
 汝は汝の命を以て
 貪み今汝を誅す
 社極菜の花事

先祖山莊奇蹟不
 破壊る在り
 忠孝優
 掠る皆重私用不
 忘天道御事

仁田	仁科	丹生	ほ	穂積	本間	堀川	へ	別所	僕村
新見	錦織	西尾	北條	細川	本庄	堀田	戸次	平群	別府
丹川	仁木	丹羽	本田	保科	星野	穂井田	逸見	日置	船松
徳山									

迹見	土肥	戸田	土岐	百々	ち	中條	千種	千田	ぬ	り	沼間
外山	富永	鳥居	藤堂	常盤井	秩父	茅渟	長曾我部	筑摩長	龍藏寺	沼田	温井
東條	土井	遠山	鳥飼	問叶	千葉	知夫			額田	奴田	

一 不辨此下音也貴
 一 舟之志也
 一 我如知下徹焉
 一 又為同音也
 一 合之乱也次以純
 一 人熱樂身更

一 不知身命限或也
 一 分去之也事
 一 大他人之理也
 一 暮橙威事
 一 極賢居愛傷人
 一 汝此分沙法事



度會 吾河 亘理 和佐 脇坂 和分
 風早 糟谷 片桐 梶原 綿貫 渡瀬
 香春 榊原 上林 樺山

渡邊 奥平 荻生 大槻 愛宕 小笠原 大田 大久保 岡井 大庭
 和久 鷲尾 越智 長田 恩地 大野木 大伴 荻野 小川 大藏 奥野 緒方
 若林 脇屋 落合 岡部 尾崎 長船 奥田 小幡 相可 大佛 織田 大館

一人未則操座病ふ
 能為面中
 好獨味名能旅人
 今溪店中
 出家沙つを致る
 崇心好家

一長流為甚具勝
 一速利根統為
 一負云家藏更
 一端物他人事

四 十 山	依 綱	吉 田	よ	高	河 南	神 戸	幸 若	門 真	海 北	川 尻	兼 松
吉 岡	米 倉	良 岑	吉 見	龜 井	梶 川	加 納	甲 賀	葛 城	川 合	葛 山	神 吉
米 澤	横 山	依 田	丁 野	柏 木	上 坂	加 藤	柿 本	可 見	葛 野	片 山	神 樂



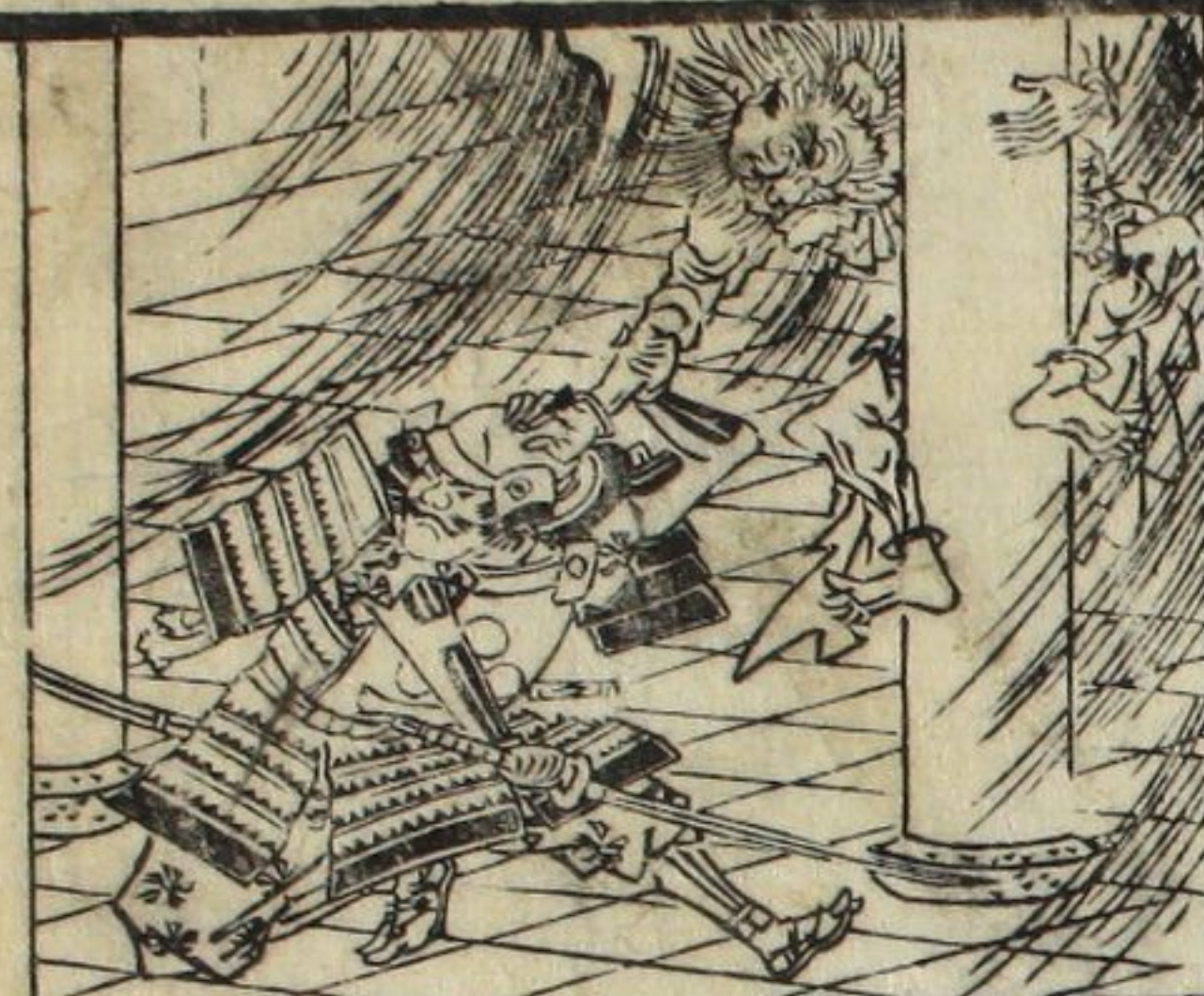
た	丹 治	高 橋	田 中	高 安	建 部
平	伊 達	玉 置	多 羅 尾	橋	武 村
武 田	種 村	多 田	竹 腰	高 階	垂 水

一 於 分 國 主 法 冥 合
 煩 性 を 婦 人 一
 一 武 臣 衣 裝 二 三 四
 一 而 於 下 日 人 者 事
 一 玉 扇 貴 賤 周 果 道
 一 理 恒 安 乐 事

一 本 心 系 考 心 然
 一 弓 馬 合 戰 考 事 武 事
 一 考 心 係 考 心 然
 一 後 弟 考 心 然 考 心 然
 一 考 心 然 考 心 然
 一 考 心 然 考 心 然
 一 考 心 然 考 心 然

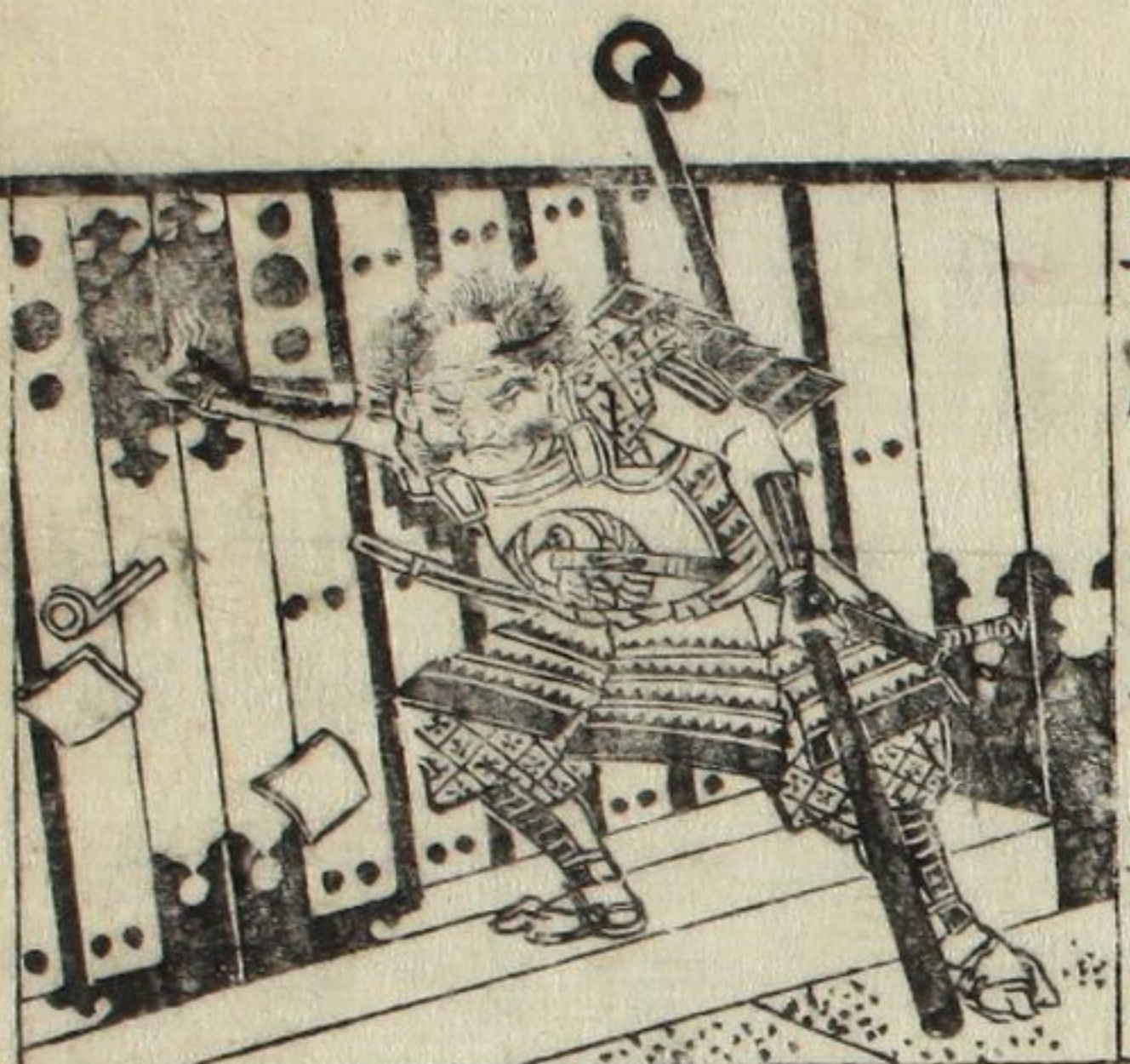
正木	蔣田	眞瀨	眞鍋	松田	八代	山北	眞神	矢田	安井	矢部
眞柄	間瀬	曲淵	馬島	馬淵	松倉	夜須	保田	柳	山中	安富
魚井	増田	間宮	牧野	松波	前田	山家	柳原	山縣	山内	梁田

馬渡	け	祈荅院	ふ	布施	富賀
松浦	毛馬	下條	藤原	吹上	藤田
前場	結解	釵持	福森	風月	船越



市為市二種
 略軍おり
 族為申
 奇權
 略軍おり
 族為申
 奇權

此後復古
 者
 海
 夫



て	寺田	勅使河原	あ	安達	安藤
手塚	轉法輪	寺澤	朝比奈	足立	天草
寺西	豊島	足助	足助	天野	朝倉

巨勢	小牧	五器所	木村	古春	小早川	後藤	こ	深栖	淵邊	伏屋	布留
舉母	小宮山	越生	久我	木寺	金剛	五井	兒玉	藤懸	文屋	福依	福王
猪人	小西	已斐	兒島	惟任	金春	五嶋	近藤	船上	古屋	深水	伏原

智信二歌先二改道
 行罷少人恒持杖笈令
 死罪刻之歎深汝之由
 果之者其科才二忠二
 忠分列之者貴爵更
 ちあやむ世量之御様

隨其人下名位乃清法
 下輩清批判之
 唯仏為救元生也
 演法法權心流之
 文武ある法を仁義

天羽	赤埴	赤川	秋山	愛甲	在原	青江	渥美	佐藤	酒井	佐々
安部	栗津	浅野	浅香	尾子	青山	芦屋	有賀	相馬	齊藤	佐竹
赤松	鮎原	秋田	安積	足利	有馬	饗庭	安西	佐間	真田	佐木
赤松	鮎原	秋田	安積	足利	有馬	饗庭	安西	佐間	真田	佐木

三枝	彭城	雜賀	貴田	木村	吉川	清原	由利	湯川	弓庭
雀部	西園寺	榊原	北畠	吉良	城戸	北村	結城	湯淺	弓削
向坂	西條	相良	京極	木曾	私市	岸本	紀伊	遊佐	由良
向坂	西條	相良	京極	木曾	私市	岸本	紀伊	遊佐	由良

用ら馬道中...
 控持人数...
 安積...
 人々...
 下

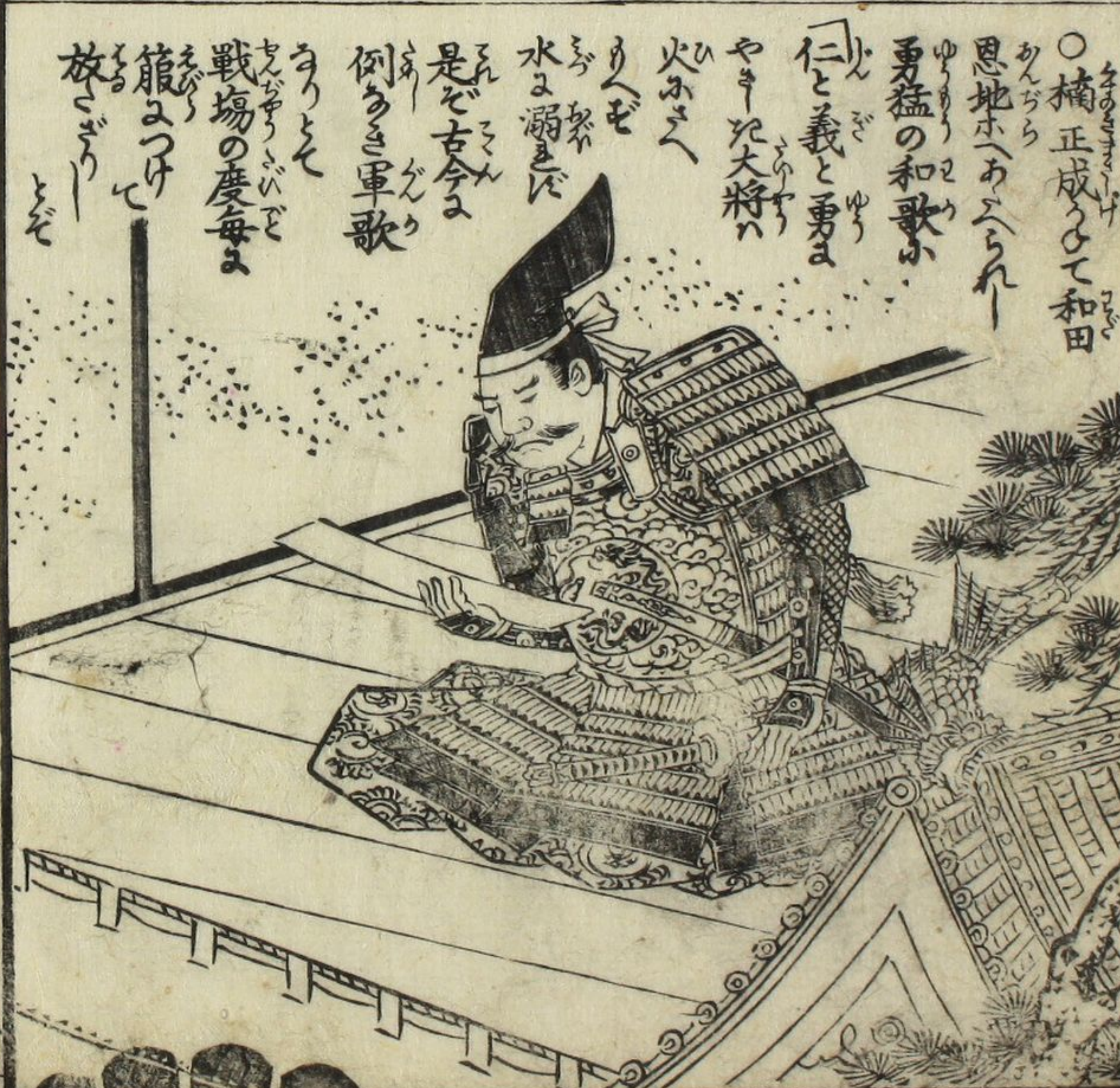
家...
 不...
 惜...
 永享元年九月十六日
 ○永享の天皇百三代後花園院の年号元年己酉の
 武將の足利義教公の治世二年小當り

足田	一柳	平塚	江島	延命	荏柄	遠藤	孫崎	滋野井	神保
彦松	久松	廣橋	會加	遠城	海老名	荏原	志方	篠原	榛谷
弘中	平賀	日野	樋口	愛智	惠美	江馬	清水	春藤	進藤



○今川了俊曰
 人有たはつ小朝またるの起卧もわりのの終は恐るべき
 主人も何ごとを氣づひる有らきま小願ふりの
 今世のあまこ上つる下つるさき多く偏小れを食
 の境界あり人の頭する者人の師するもの天下ひけり
 よりあまこ己がま小樂しめる事やある誠りあま
 申しきまらり

敷津	完戸	澁谷	新宮	箕田	三善	御宿	宮本	夫婦木	め
推名	新庄	下河邊	設樂	瓶尻	壬生	南淵	水戸	源	米良
篠塚	信夫	嶋津	下間	柴田	明星	御厨	箕輪	三好	飯



菅谷	鋤柄	住友	菅原	鈴木	す	洗馬	仙石	せ	百原	物部	も
砂金	隅田	角倉	陶山	杉浦	須藤	千壽	関	妹尾	師岡	毛利	望月
畢	杉野	諏訪	菅野	菅沼	陶	背山	瀬川	世良田	本居	森	桃井

又曰今世大名とあり小名とあり書札みりよありあふ
 時たぐひの言葉みり事あさゆー官領へ官領國
 主の國主平侍の平侍あまが如何やどすめくと己れが
 今日よきとて人と言やうらるとも其分々の外出へうじ
 されば此支とおひ出てんいとうるべーとおひの



○源義經の幼名牛若丸と号し
 人皇五十六代清和天皇第六の
 皇子貞純親王の嫡子經基王
 より七代允馬頭義朝の九男と
 故に九郎冠者と称せし賴朝々
 の代官として木曾義仲帝都の
 乱妨を討平け平家と圓の
 攻に都より下りあふ時握原
 景時諛言を構へて御兄弟の
 間を隔ゆ義經も大功
 を立せらるゝも賴朝卿の疑
 ひを蒙り鎌倉小入と能
 ざるに相州腰越小有る其



牛若丸鞍馬山
 兵衛を学

身の曾て誤り多し只諺者の呼
 爲あること述て鎌倉の執事
 因幡守まゝ歎き訴ふ所
 状あり是とせし腰越状と云
 武藏坊辨慶とて書と云
 文治五年奥州衣川の館於
 て泰衡爲に没落し時年三
 十八説ふ此時義經自ら妻を
 と刺殺し自分の影武者を以て
 自害と示し實に辨慶一人と
 具して蝦夷地(落行)と
 ぞ今社ありて義經大明神と
 号(蝦夷人のとも尊信と云

○武將歴世畧傳

第一 頼朝 源義朝の三男 治世二十年
 第二 頼家 頼朝の長男 治世五年
 第三 實朝 頼朝の二男 治世十七年
 第四 頼經 藤原道家曾 治世十八年
 第五 頼嗣 頼經の長子 治世八年



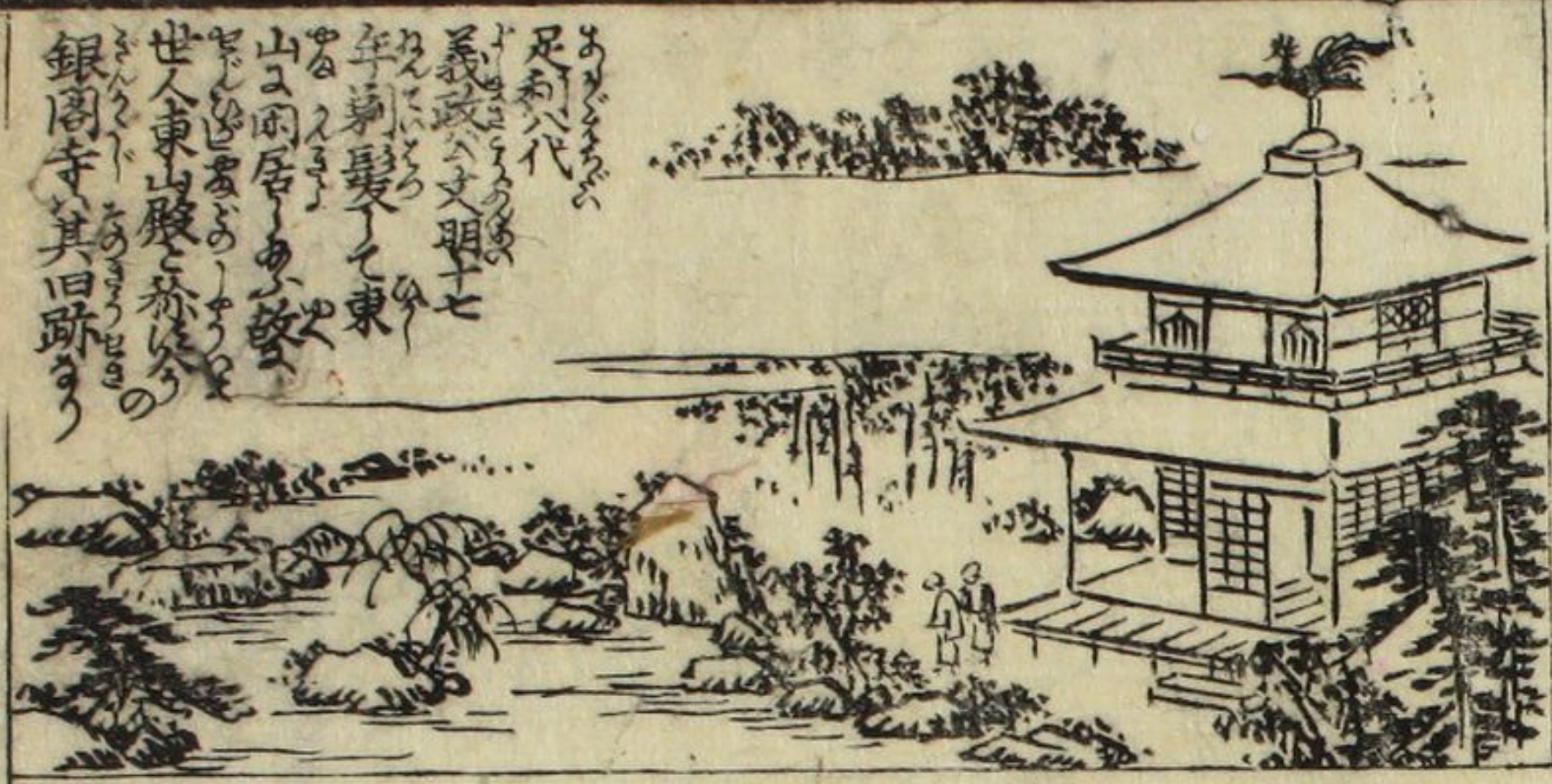
腰越状
 源義經は心算上りて
 河内河原に官其
 和宣は河内使領朝歌
 里代弓矢兼藤原重光
 心算上りて出雲に官

依序に漢言は然し漢言を
 切我道に在る家持源朝
 雲漢教は切字を向老所
 江原は茶事とて良茶若
 心算上りて官其
 心算上りて官其
 心算上りて官其

第十七	第十六	第十五	第十四	第十三	第十二	第十一	第十	第九	第八	第七	第六
義教	義量	義持	義滿	義詮	尊氏	成良親王	尊雲親王	守邦親王	久明親王	惟康親王	崇尊親王
治世十四年	治世三年	治世二十二年	治世四十年	治世十年	治世二十五年	治世三年	治世二十五年	治世二十五年	治世二十年	治世二十五年	治世十五年
義滿三男	義持長子	義滿長子	義詮長子	尊氏三男	足利氏源家	同第八皇子	後醍醐天皇	久明親王長子	後深草院	崇尊親王長子	後醍醐天皇

會年... 教日... 肯月... 松... 欣... 靈...
（Small characters and kana are interspersed throughout the main text)

第十六	第十五
義勝	義政
治世三年	治世四年
義教長子	義教二男



足利六代
 義政
 文明十七
 年
 義政
 東
 山
 銀閣寺
 其跡

授... 新... 山... 時... 弘... 之...
（Small characters and kana are interspersed throughout the main text)

○諸國一之宮神社記

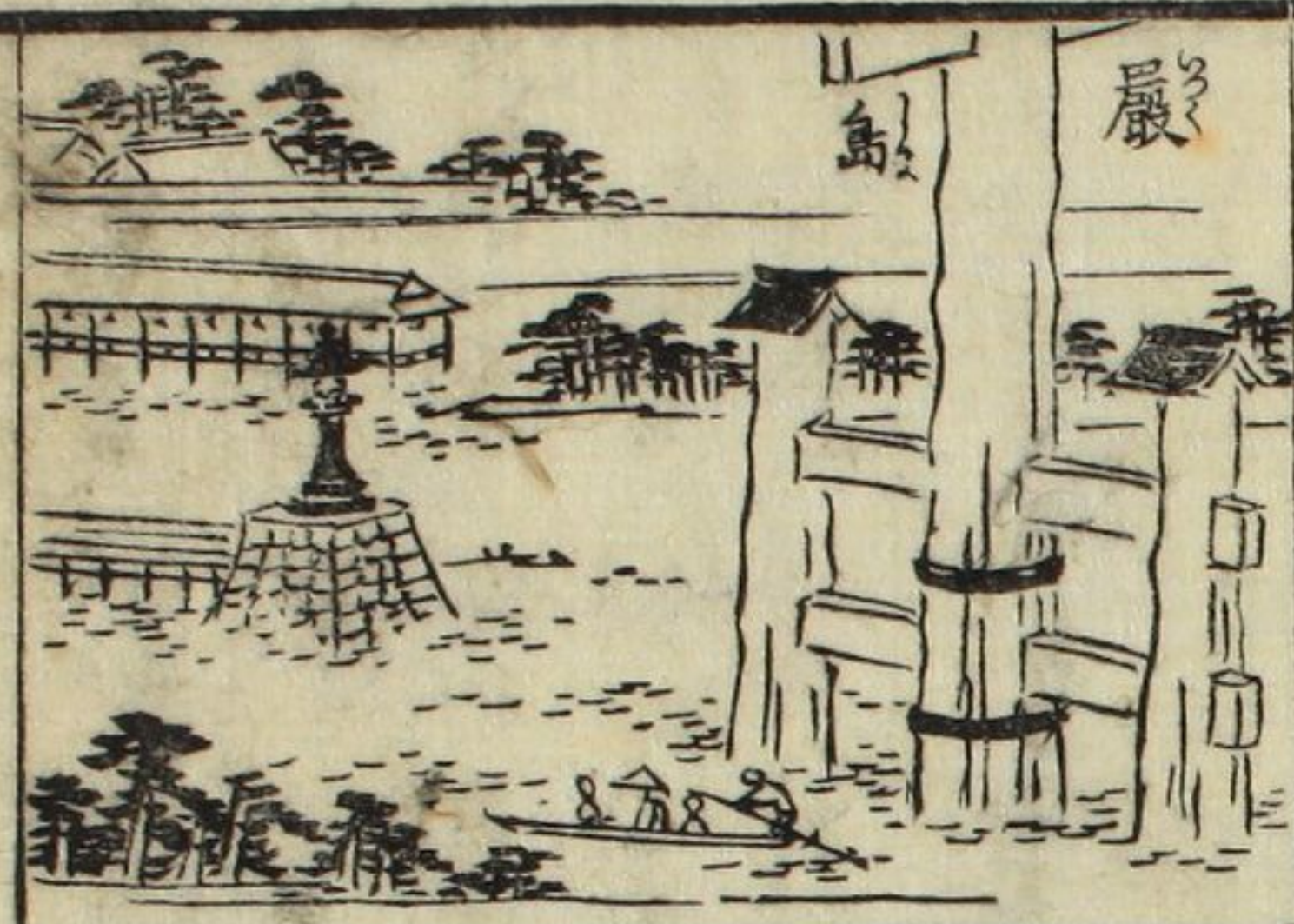
建部	香取	洲崎	寒川	浅間	事任	真清	都波木	住吉	平岡	賀茂
近江国	下総国	安房国	相模国	甲斐国	遠江国	尾張国	伊勢国	摂津国	河内国	出雲国
南宮	鹿島	玉前	氷川	三島	富士	砥鹿	伊射渡	敢國	大鳥	三輪
美濃国	常陸国	上総国	武蔵国	伊豆国	駿河国	三河国	志保国	伊賀国	磐前	大智



水無	拔針	鹽竈	遠敷	白山	高瀬
飛騨国	上野国	陸奥国	若狭国	加賀国	越中国
諏訪	日光	飽海	氣比	氣多	伊夜彦
信濃国	下野国	出羽国	越前	能登	越前

愚か力花甲冒ら若者
 業を併欲を体統者
 憤亦花他新家を補
 但五位尉系高家曾
 希代重祇の莫き法
 今此源姓切也用茲法也

諸社牛王齋宗理之概
 心も奉清爲日本六拾
 余洲大也神法眞の道
 書其教通記清文行
 亦救世主我國を林
 玉や神帝非流不流



高良 筑後國
 柞原 豊後國
 阿蘇 肥後國
 兵幡 大隅國
 石田 壹岐國
 宇佐 豊前國
 川上 肥前國
 都農 日向國
 渡海 薩摩國
 和多都美 對馬

渡海 佐渡國
 籠守 丹後國
 宇信 因幡國
 杵築 出雲國
 由良姫 隱岐國
 中山 美作國
 吉備津 備中國
 嚴島 安藝國
 住吉 長門國
 伊弉諾 淡路國
 田村 讚岐國
 土佐 土佐國
 出雲 丹波國
 粟鹿 備前國
 倭文 備前國
 物部 百鬼國
 伊和 播磨國
 吉備津 備前國
 吉備津 備前國
 玉祖 周防國
 日前 細河國
 大藤 阿波國
 大山祇 伊豫國
 宮崎 筑前國

因幡守前大膳大夫廣元と号人王五平代平城天皇第三の皇子阿保親手り出で中納言匡房四代の孫なり治兼軍天下の政道の師範とす將軍四代の間天下の事と掌る

書後保合者略年請年
 作 賢矣公惟清云
 大治元年六月廿日
 源義經
 進上同情尊殿

地備保者廣元と号の
 然同保合者略年請年
 柞原保合者略年請年
 榮花お女孫仍開日
 未然眉海一期安寧う喜

○五性花押圖式

木性
大吉
九三
九五

九五
九三
九五

金性
大吉
九五
九五

九五
九七
九五

水性
大吉
九九
九七

九九
九七
九七

火性
大吉
九一
九九

九一
九一
九一

土性
大吉
九三
九七

九七
九七
九三

花押の字は名乗の母字と用ひて
古例のまゝも當時の多く飯字と
作るもの母字と諱の下の字と母
と上の字の父の又二字と切して
一字と反是と飯字と云反切の格
數品あり韻鏡小詳のまゝに
こんと畧す

○會状より源義經兄頼朝卿の疑い解を既く勘氣の業り是非多
く治三年の頃奥州小下り秀衡と
頼朝あふ秀衡尊の敬ひく
君のそく傳り頼朝卿
又秀衡小御教書と
下と義經と討んと
之命之時小秀衡病
率其子泰衡兄
弟父の遺命を背け
衣川の館と困
む義經終不自害
其時口小會
の河の状あり即
取て鎌倉に達
故小これと會状
といふ



義經會状

漢抄義經末期賊出清
和基公見後由御付家
末清義經文清堂の極
大盛に後任はま百姓
法南由家御付御

同書風大概

福木性

壽火性

玉土性

馬金性

馬水性

福壽玉馬馬

書風見競古人花押

源頼朝

花押

源頼朝花押

源判官義經

花押

伊豫守
大夫判官
と号

平經盛

花押

敦盛の父
参議修理大夫也

平經盛花押

お初言二或時外野

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

伏土性

熊谷治郎直實

花押

武藏国住人
私黨の旗頭也

平敦盛

花押

従五位下
無官大夫

と号す

今川伊豫入道了俊

花押

尚許多ありと云ふ事歟
れはこれと畧す

西馬西

せんせんりつどもおれいごだつてしひつふまきんらうしひびく

百端の海経を著す

文治元年閏月廿八日

義経

進上源右兵衛佐政

頼朝の從四位下左馬頭義朝の三男なり幼名幡屋武者王と号し
平治元年右兵衛佐に任じ永曆元年伊豆國に流れ後正二位
大納言に至り文治元年天下惣追捕使と成り建久三年右近衛
大将征夷大將軍と拜し正治元年庚申正月十三日薨年五十三

○熊谷次郎直實の桓武天皇

十二代平盛方勅勸と蒙り其

子直貞二歳の母を伴われ武

藏國より成長して熊谷次郎

と号し大里郡に於て熊と殺し十

六歳の時私市黨の旗頭とす

故に私の黨の旗頭といひ則直

貞より三代目直實なり平治

の乱小源義平の屬し郁芳門

守り十六騎の一負あり源氏

譜代の臣丹治姓より後小頼

朝に属し常州佐竹の役高名

あり尚撰州一の谷の戦軍功

あり



一谷の
戦ひ
直実
敦盛の
首討

且平家の公達無官矣教
 盛討取此時其死骸と敵
 陣に送る時添の状とせ能容
 状と号く直實無官めて正二位
 参議經盛卿書と呈すと憚りて
 平家の侍大将伊賀平内左門を
 送りて其後直實を燒天久下權
 頭直光と領知の争論を時権原が
 依怙の沙汰と憤り訴と投とて忽
 ち警と切て入道と然天の季
 と成て蓮生法師と号し武外熊谷
 寺則ち直實入道蓮生の開基と
 して經盛自筆の返書ありとて



或云直實が發心の敦盛と討
 たり武道と捨るといふ平く
 俗説ありと領知の争論の條
 少く明らうとら小按ぶる其理
 ありといふも入道と其憤は
 なる所あり發心の原の敦盛
 と討し時を有べし
 嘗て粟生光明寺と建て後故
 郷下小行住座臥小西方と背
 みをば京より關東下小鞍と
 逆りて後に向ふと馬を兼行と
 淨土も強の者と沙汰すん
 西よりひて後を見せ絲と

熊谷直實送状
 由実海人今度と兼業と云
 け若得兵主の改戦採泰
 皇慈丹忠由欲と商負
 幻俄と怨敵思と相成
 常業承たる後と後

○諸職百官名

攝政	大政大臣
左大臣	右大臣
唯大臣	大納言
參議	少納言
中將	少將
辨官	左大辨
史	左中辨
中務省	左大史
中務卿	左小史
中務大輔	右大史
中務大丞	右中史
中務少輔	右大辨
中務少丞	右中辨
中務少錄	右少辨
中務大錄	右大史
中務少錄	右小史

侍從	内舎人	大内記
小内記	大監物	小監物
中宮大夫	同權大夫	同權亮
中宮大進	同少進	大属少属
中宮大進	同少進	大属少属
大舍人頭	同助	同權助
大舍人頭	同助	大允少允
大舍人頭	同助	大属少属



雲々大將總兵威威
 乃乃服重官官始
 法法年家位多勢電
 中務大將總兵威威
 乃乃服重官官始
 法法年家位多勢電
 中務大將總兵威威
 乃乃服重官官始
 法法年家位多勢電

敵難得天下母愛名改
 言成雷响皆集為後
 車然扶杖後振銀象
 指食命於同方沈名高
 海派事自他他家官
 物中其其其其其其



諸陵頭 同助 同屬	玄蕃頭 同助 同屬	雅樂頭 同助 同屬	治部卿 同大丞 同大錄	治部省 治部大輔 同大丞 同大錄
同充 同屬	同充 同屬	同充 同屬	同少丞 同少錄	同少輔 同少丞 同少錄

運使仁宗切生死地力運
 所却行所給與所則在
 困店地早中善提
 考也重番於大音
 世重慶疾心正不
 漢重復病之減心

大學頭 同助 同充	式部卿 同大丞 同大錄	式部省 式部大輔 同大丞 同大錄	内匠頭 同助 同充	陰陽頭 同助 同充	縫殿頭 同助 同屬	内藏頭 同助 同充	圖書頭 同助 同充
同推助 大充少充	同少輔 同少丞 同少錄	同少輔 同少丞 同少錄	同充 同屬	同充 同屬	同充 同屬	同充 同屬	同充 同屬

唯此終本甚美矣
 子美控名也故
 守行持派預
 退食備直實
 依忠海江此
 奉為正款害清

民部省

民部卿 同 大録 同 少録
同 大丞 同 少丞

主計頭 同 允 大允
同 允 大允
同 允 大允

主税頭 同 助 大属
同 助 大属
同 助 大属

兵部省

兵部卿 同 大丞 同 少丞
同 大丞 同 少丞
同 大丞 同 少丞

隼人頭 同 佐 同 少佐
同 佐 同 少佐
同 佐 同 少佐

刑部省

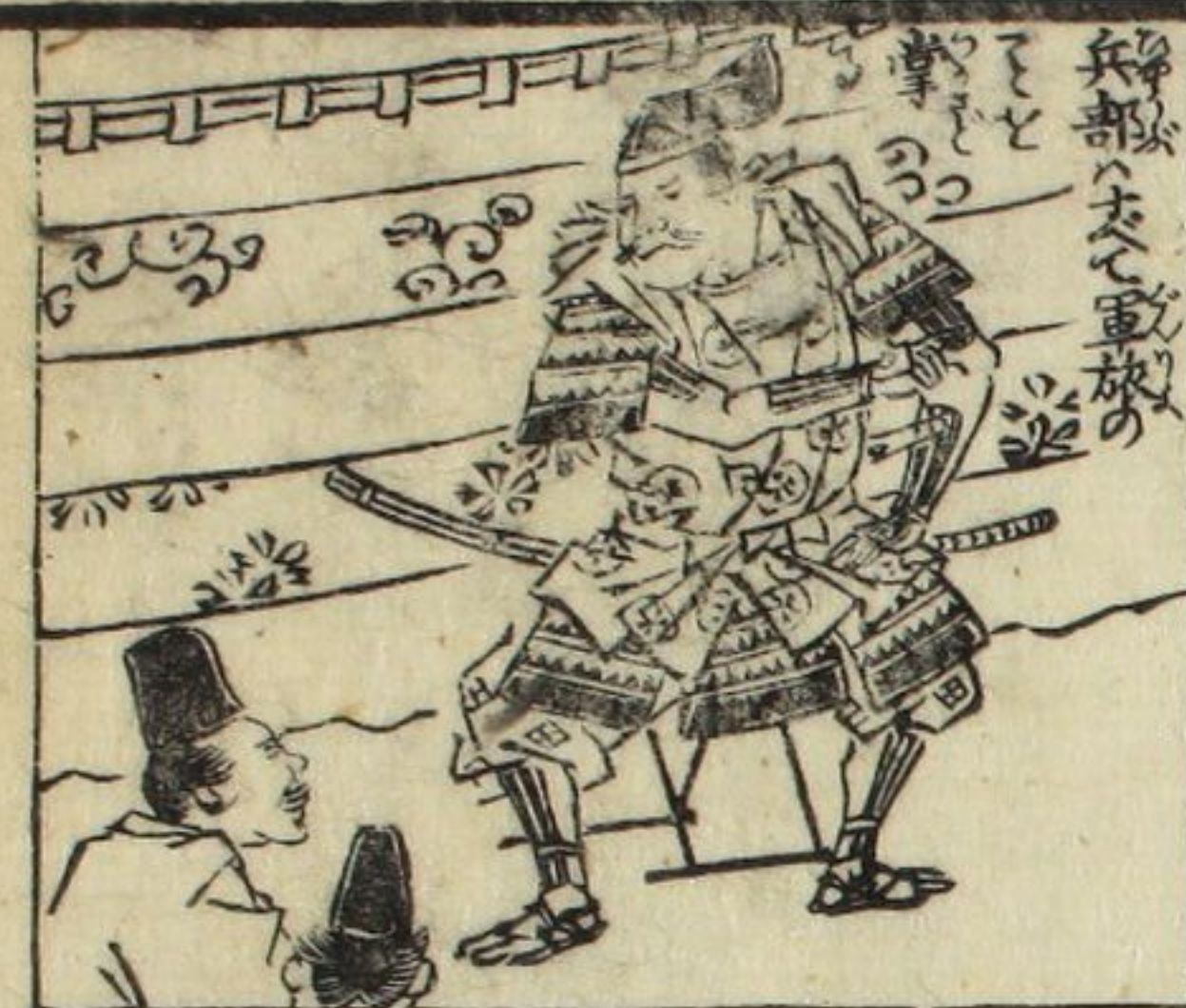
刑部卿 同 大丞 同 少丞
同 大丞 同 少丞
同 大丞 同 少丞

大判事 同 大録 同 少録
同 大録 同 少録
同 大録 同 少録

囚獄正 同 佑 同 少佑
同 佑 同 少佑
同 佑 同 少佑

大藏省

大藏卿 同 大丞 同 少丞
同 大丞 同 少丞
同 大丞 同 少丞



謹言

壽永三年二月廿日

丹波直實

進上伊賀者内德尉友

壽永の年皇八十一代安徳天皇の年号三年の甲辰の二月七日より
一の谷に於て教盛を討ち翌八日死骸と共に甲冑太刀母衣杯其
外身漆品と送り付て遣りて遣りて所之の狀之此年平家一族敗
後鳥羽帝御即位す四月十六日年号と元暦と改めぬ

経歴返状

今日身は精如天公

教養記終系速揚

出花法古者法深

波之末運命壹化

界平驚又原就揚

織部正 同 御
同 令 史

宮内省

宮内卿 同 宮内大輔 同 少輔
同 大丞 同 少丞
同 大録 同 少録

大膳大夫 同 亮
同 大進 同 少進
同 属 同 少属

木工頭 同 助
同 允 同 推助
同 属 大属少属

大炊頭 同 助
同 允 同 推助
同 属 大属少属

主殿頭 同 助
同 允 同 推助
同 属 大属少属

掃部頭 同 助
同 允 同 推助
同 属 大属少属

正親正 正親佑
同 令 史 同 典膳

内膳正 同 奉膳
同 令 史 同 典膳

造酒正 同 佑
同 令 史

采女正 同 佑
同 令 史

主水正 同 佑
同 令 史

右省畢



度思常事其生者其誠
禮去賢者其定之其是
禮成親教之其人世矣
約不其釋尊也其唯性
考者應身權化之也
斯次於架下白塔也其

律者七法打立朝至
今日身王代未離力無
東時母其其内乃取
翅治死由家重其也
出河之清信水其美
香間備其其其其矣

藏人別當 藏人頭

按察使

大宰帥 同推帥

同大貳 同少貳

將監

左衛門督 右衛門督

同佐 同推佐

左兵衛督 右兵衛督

同尉 大尉少尉

左馬頭 右馬頭

同推頭 同助 同推助

兵庫頭 同大允 同少允 同大允 同少允

國司 太守 守

推守 介 推介

掾 少掾 目省 郡司

右のこく九官のミカミシケリカ
サケハシの四ありて是と四分と各
其官より文字の變ありやまひ
次に出せ



こ えん ざん せん びん せん ざん せん ざん せん

長盛の五男ありて相國清盛の弟あり正二位参議小任

壽永三年二月十日

經盛

長谷川所及

經盛の五男ありて相國清盛の弟あり正二位参議小任

三月廿四日長州

壇の浦に於て

入水と敦盛の

經盛の三男

みく 徒五位

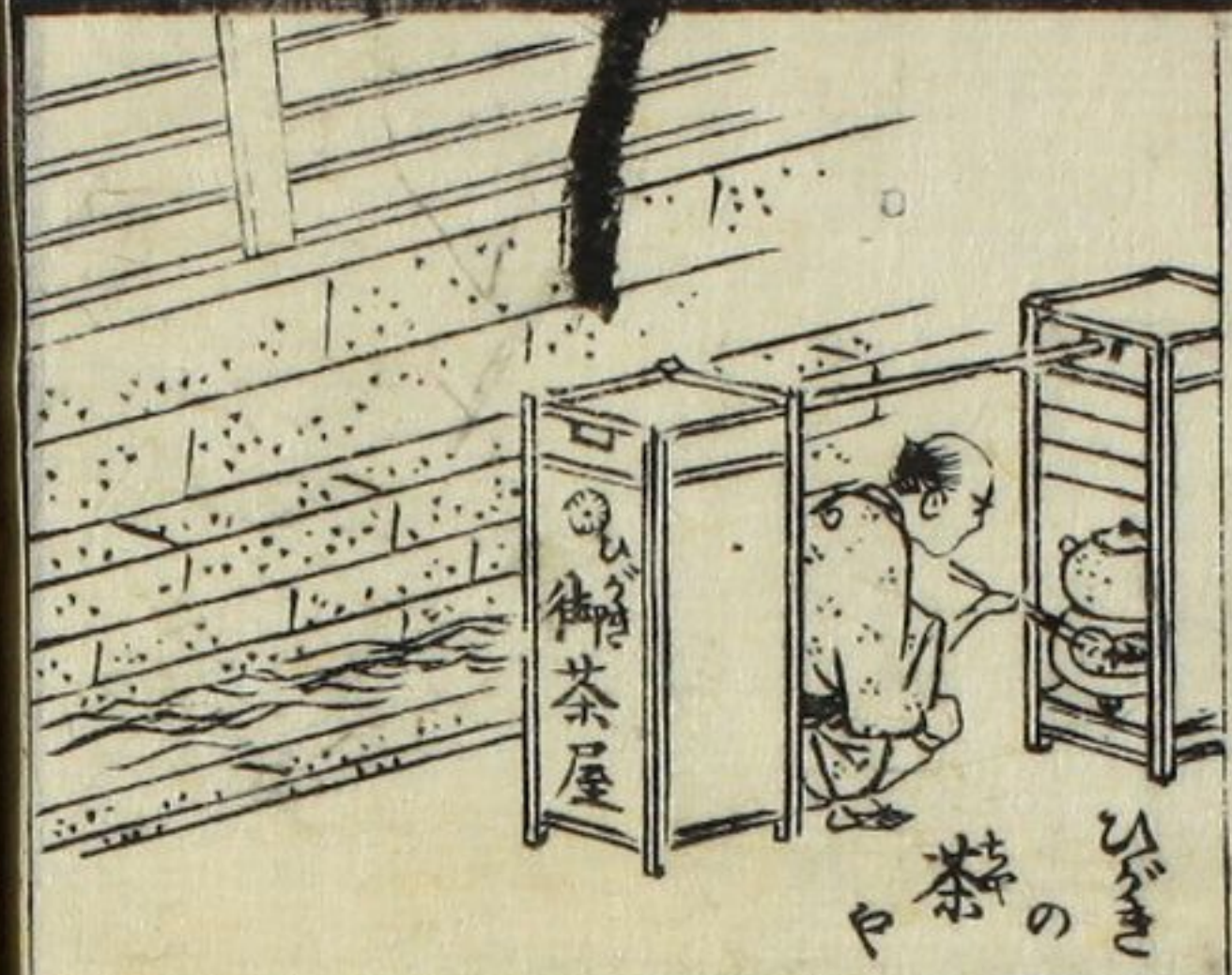
下 無官

大夫と

号に



御頭 正 督 守
 輔 助 亮 佐 介
 丞 允 佑 尉 掾
 録 屬 令 史 志 目
 官 不 用 所 前 委
 出 考 見 也



辨慶の父祖何の書も
 詳るは一説小雲州葛根郡の
 産ありといふ又紀州熊野の別
 當湛増の子ありといふ非
 辨慶の父は雲州意守郡熊野
 山に住りて是等の地名の同まを
 以て紀州と混言するも其初
 雲州松山花藏寺の児はに
 後同国鯉淵寺播州書山小坊
 寺に學文を修し遠比叡山西
 塔のらそ武藏坊と稱し博學
 力強識剛力無双なり且義
 經は隨身と専ら軍忠と
 終

東百官 又東百官あり
 中記 左内 右内 中
 浪江 江漏 衛守 免毛 波門 平馬
 兵馬 伊織 丹下 求馬 久米 頼母 左膳 右膳 小膳 織
 要 司馬 岩尾 左平 右平 男也 自然 多門 大所化 小所化
 半外 平角 宮門 鷄殿 采祿 男依 丹宮 藏主 音門 一學
 丹彌 門彌 矢柄 小貳 大貳 古仙 隼人 助彌 郡部 巨 丈内
 典膳 茂末 藤馬 清記 此面 彈番 武極 齋 牧太 典禮
 梅干 遠炊 主祿 喜内 求官 正遣 將殿 肥富 軍記 主尾
 諸領 男吏 典女 懷馬 申藝 采殿 喜間 多恰 志津 摩 轉
 信像 織助 織居 司書
 文庫 愛之助 首令 小源太
 左源太 能登路 一問多
 左門 右門 數馬 左中 右中
 此内典膳小貳大貳の眞の百官小同色傳云平將門
 叛逆を發し総州相馬郡小都と營とみりて平親
 王と稱りて百官とわくふ事一と記るる名とつ
 くる所あり故に相馬百官といふもいふもその
 是非を知らざ



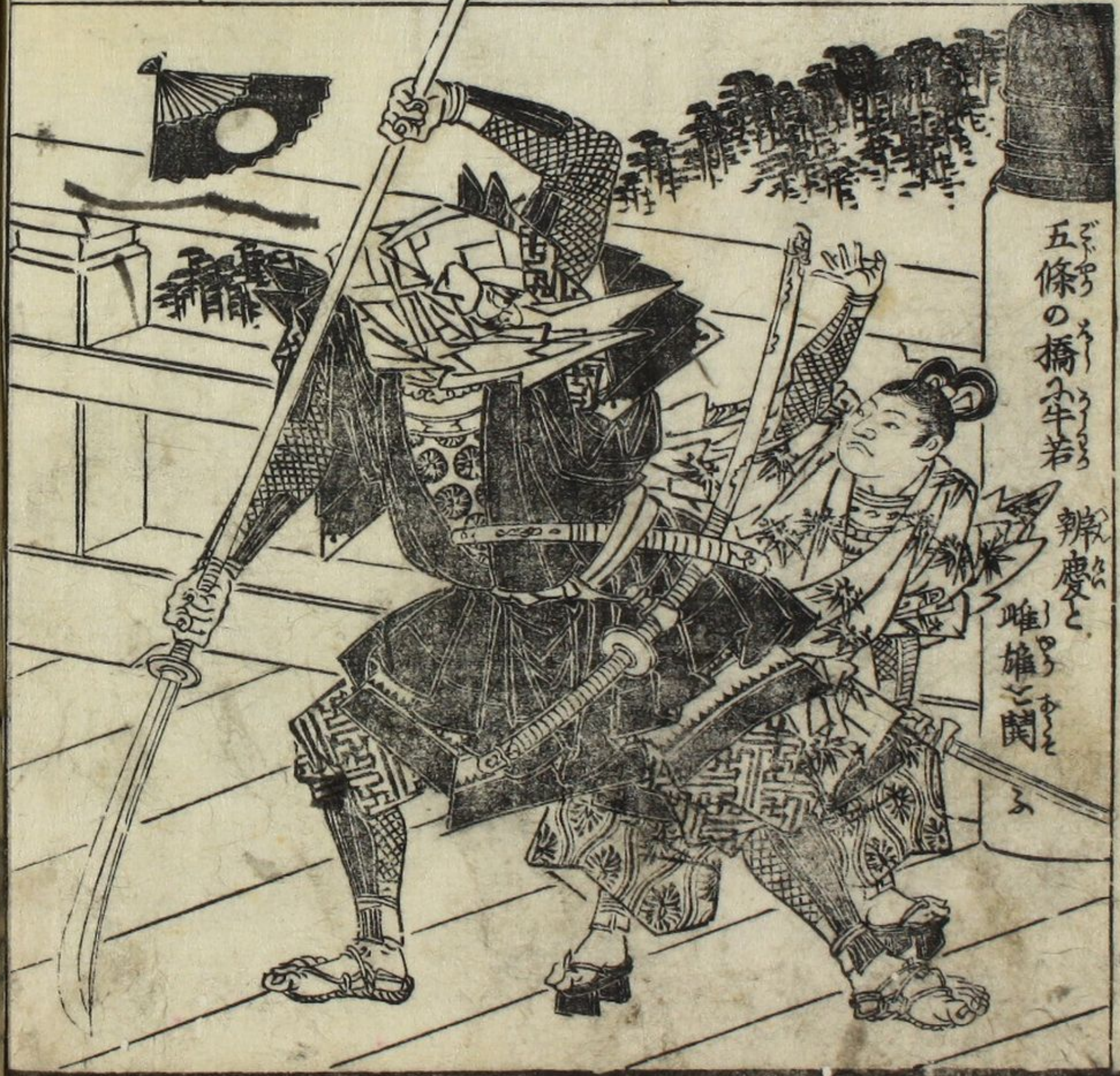
朋	邦	彌	標	船	輩	富	滿	倍	綱	木性
並	喜	方	品	片	令	平	睦	幹	巷	貴
繁	房	得	孟	包	伴	本	賀	輔	彌	矩
茂	明	敷	宣	憑	比	傳	高	倚	堅	恒
豐	白	伯	番	福	敏	殺	可	義	鉦	柯

○五性名乗字盡

五性名乗字盡
 木性 貴 矩 恒 柯
 綱 巷 彌 堅 鉦
 倍 幹 輔 倚 義
 滿 睦 賀 高 可
 富 平 本 傳 殺
 輩 令 伴 比 敏
 船 片 包 憑 福
 標 品 孟 宣 番
 彌 方 得 敷 伯
 邦 喜 房 明 白
 朋 並 繁 茂 豐

武藏坊辨慶花押
 捨の一通とい書しあり

文治五年奥州衣川かむ義
 經と共に戦死せし此辨慶狀
 とす右戦死の時よく認め
 たる後遺り状とい書
 捨の一通とい書しあり



五條の橋半若

辨慶と
唯雄と関

階	計	香	庫	依	影	鄒	詔	現	崔	抽	奮
刻	賢	寄	及	條	輝	廣	光	厚	匡	期	能
妍	懸	玄	起	統	近	基	徑	完	興	林	斌
孝	懷	侯	吉	弘	量	介	諧	敬	鄉	雅	尾
公	克	幾	又	家	兼	季	均	潔	顯	記	啟

言々魚溪言物物
 極其方今已生信
 探其作動之表
 二之信也
 一每其月
 戒令後

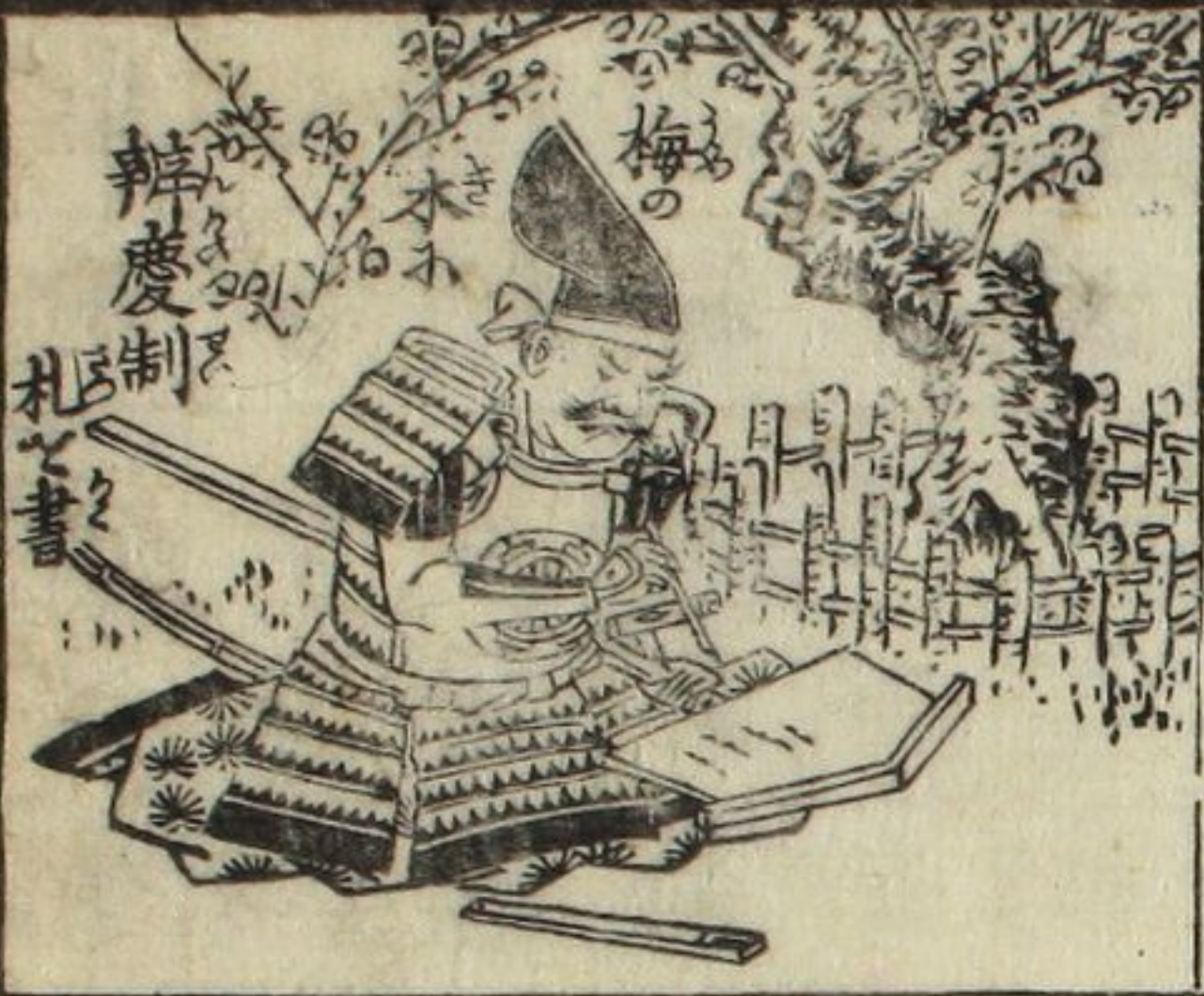
建	猶	天	產	持
行	致	歷	泰	諱
核	儀	但	理	貞
經	國	陳	亮	須
業	康	太	聚	兩



收南世
 信其心
 生其宗
 其若年
 夜之思

安	金	積	嘉	通	諫	良	淑	宅	往	世	員
應	祥	燭	珍	籌	德	道	長	能	利	督	男
葉	延	著	廷	廉	都	登	列	禊	置	類	掠
伊	猷	等	賴	重	知	直	敦	籍	寧	俊	若
也	邑	澄	和	洽	侶	概	卓	朝	鄰	仁	榮

中武... 負... 方... 浮... 日... 清...



阿	術	喬	殷	運	庸
序	由	遊	尹	英	胤
猶	以	云	武	緒	綿
敷	影	爲	永	綬	遙
亦	益	用	盈	悅	愛

十... 伏... 自... 將... 之... 之...

○日本武家八介
 秋田城介 羽出 三浦介 相模
 千葉介 下 上総介 上
 狩野介 伊豆 井伊介 江速
 富樫介 賀加 大内介 防周
 ○足利家三管領
 斯波 細川 畠山
 ○同四職 今川
 山名 赤松 一色 京極
 ○同和禮三家
 伊勢 今川 小笠原
 右三家の足利三代義満の御時仰
 仰らば武家の故実とありて
 礼式と定むとす

○曾我十郎祐成同五郎時致
 兄弟大職冠鎌足より大代
 伊藤入道祐親の惣領河
 津三郎祐道の子也藤左門
 祐經伊藤祐親の兄藤左
 の子也とされ祐泰の祐經の親
 き従弟時小祐道故ありて
 工藤の白領入須美の庄と押領
 せしが祐經より河津と恨終
 小安元二年十月祐道伊豆国奥
 野の狩の飯とを待ひ赤沢の
 麓にて祐經密に若黨大見小藤
 大八幡三郎西人の命と祐道射

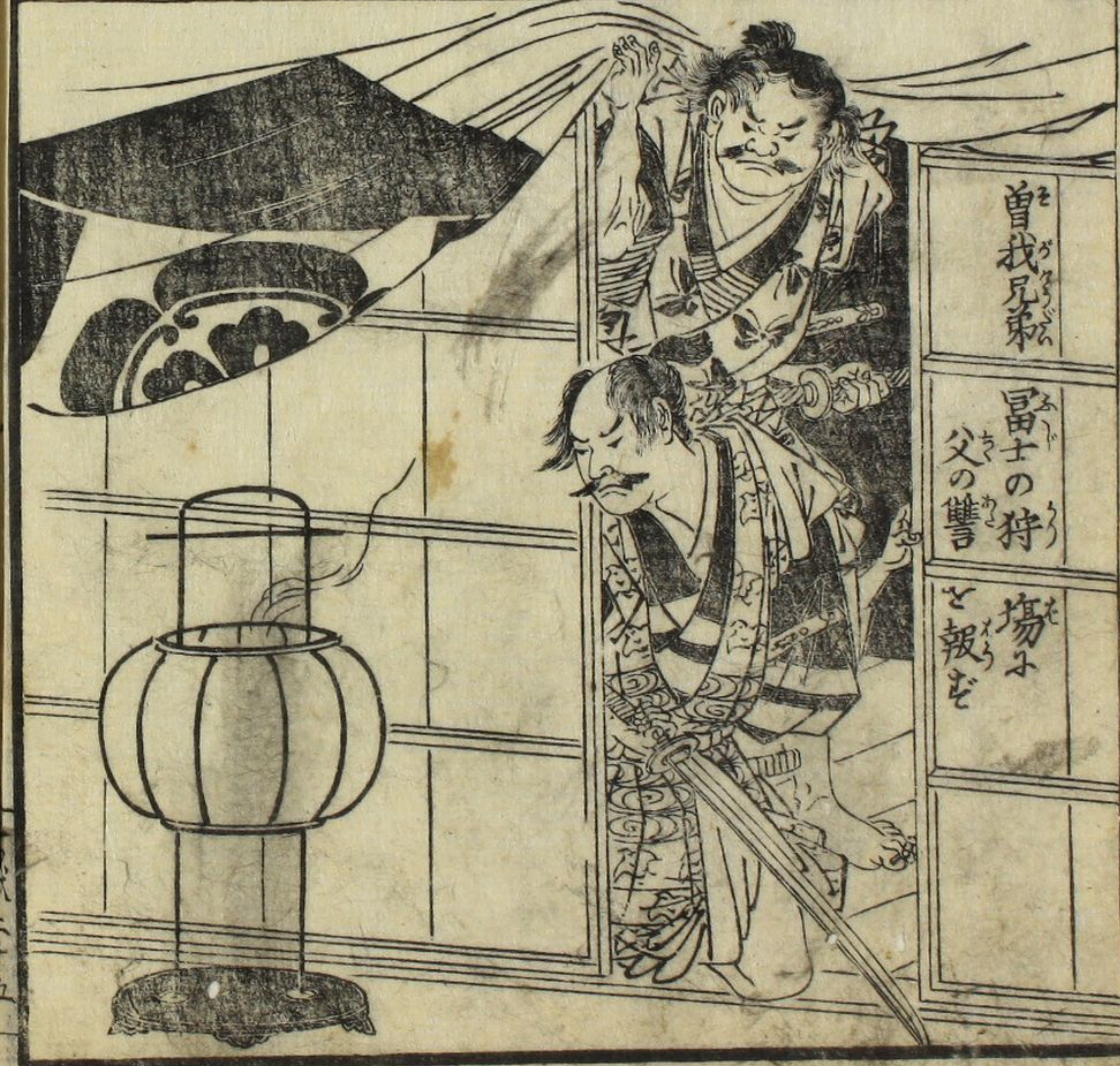


○一説は源義經奥州衣川の館没落のち死して蝦夷小渡りて身と年を
 島の民に敬服傳き奉る天年終りて卒に其地と沙古丹といふ神祠と
 建て甚に崇信拜する毎小南無義經と称るといふ蝦夷日本の東北の海
 中にある島なり南北長うて此の靛靛の地小隣り東に大洋海に山嶽多し嶮岨
 ありとす



赤沢山小
 河津股野
 相撲と取
 力と競ふ

殺す此時十郎祐成二万九
 と五歳五郎時致の曾王丸と三
 歳此と祐道が妻夫と失ふ小
 より西人の子と曾我太郎信
 小再い嫁とこれ依て曾我家
 て成長し曾我と氏と人斯く兄
 弟の敵祐經と討と數年辛苦
 祐成の廿二歳時致は廿歳が成
 建久四年五月十日將軍頼朝卿
 駿州富士野の牧狩あり相を
 大小名十万余あり假家と列
 ね構へる曾我兄弟此時牧
 小紛まてつげ規の同廿日夜藤



が假屋を忍び入て亡父の敵祐
 經と討し此小備前国吉備津宮
 の神王藤内景氏といすの鎌
 倉殿の不貞と蒙り領知とせ
 上られ流浪せし祐經取成を
 以て恩免と蒙り本国へ帰
 るとして藤内名残と惜み共彼
 假屋泊り酔臥居り討せけふ
 夜中不意小起り事るまに騒
 動大方なは何の辨もあらず
 たり軍卒出く敵と討先と出
 合より兄弟是非多く討むら
 力を尽して戦ふは御所休む

曾我状
 今月廿一日駿州富士野
 牧場陣取あり藤内
 景氏の時致は流石押寄
 りて兄弟を討つに
 藤内景氏の時致は流石押寄
 りて兄弟を討つに
 藤内景氏の時致は流石押寄
 りて兄弟を討つに

小次郎の謀叛と巧み不賞れ結
 成仁田郎忠常討と五郎本
 陣乱入御座りく進より
 御所の五郎丸と生搦て奉る
 少速小刑と斯有程小棍
 原平三景時より曾我太郎信
 此度と申遣と状とせ曾我状
 小次郎曾我兄弟信養の
 れも漸く成長て手元をなれ
 浪人の故祐信と外あられど
 共爰小次郎とる十郎の異
 父同腹の元ありれ母若し時
 京なる男も馴て儲子則河津

一嫁さる前の子あり河津の
 亂る非ど曾我の家も居は
 京小育は天臆病者と後生
 くれ誅とるを禪師房と云
 河津三郎討て後程う出せし
 子と伯父伊藤九郎祐清小養れ
 後僧と成貫永と号と越後小
 ありそ曾我兄弟討れ後鎌倉
 在が曾我兄弟討れ後鎌倉



國後人有備言者河津
 志平年性中や依
 多津城其の流法金小
 次郎金身津法度思定
 有甚密之石阿日下石
 多由進依徳と評

建久四年二月廿日

梶原景時

曾我大所及

同延状

曾我教書と月二日

り召さす火を奉りて鎌倉の甘繩
 小至てく自害さる生至大歳英
 雄の法師あり或は鎌倉より召
 さして聞て自害さるが未だ死終ら
 ざるに捕て鎌倉小引大言を
 以て鎌倉殿の肝と寒くしり誅
 せらるるなり
 ○其後富士野より時々火を
 現り奇怪の更にも多き風
 説ありて鎌倉殿に召至剛
 の者憤死する時その凝結す所の
 氣散りて奇怪とあると古
 来例もなきに如何なる歎

る事も有ぬべし依て貴僧
 と請て七彼靈鬼と吊り
 と命有る小なり直ち小兄弟
 が亡天と初め彼場所於て討
 き味方の諸卒の菩提と吊
 るる小其後富士野の怪は
 る然も小兄弟が靈彼野の責
 の子小託て我と神小祝祭る
 永く此地の鎮護とあり且父母
 昆弟の仇と容易く討得き守
 護神と成べしと告りて領を
 此趣と許さる鎌倉殿聞れ
 岡部権守泰綱と奉行とて社

御身は澤原平景長の子
 少は後少房も事小
 次郎京初住居と成及
 作者別は行使者も事小
 禪竹庵法入意依之新
 めい不及も進修ははる

徳と事と神心増進

六月廿日

石橋山

澤原平景長

○梶原平三景時の鎮守府將軍忠通四代の孫梶原太郎平景長の子
 少は元平家の侍なり頼朝義兵のそめ石橋山の入居
 伏木の虚洞小隠せられと二心と懐き助けたり頼朝隨一の臣と
 成れり士野の別當と蒙り其子源太左衛門景季次男平次左衛門
 景高ホも龍也なりと

曾我兄弟の系圖
 大職冠鎌足十七代
 祐家 伊東太郎大夫 從五位下
 祐親 河津次郎後号伊東入道
 祐道 河津三郎 於赤沢山横死
 又東鑑云 祐泰より



○曾我兄弟系圖

大職冠鎌足十七代
 ○祐家 伊東太郎大夫 從五位下

祐繼 伊東武者所澤

祐經 工藤 從五位下左衛門尉

祐道 河津三郎 於赤沢山横死
 ○本朝通記云 祐重ト云 又東鑑云 祐泰より

祐成 曾我十郎。母曾我太郎祐信。再嫁。曾我の家。於て兄弟
 とも成長。父は曾我と名のり。のち
 曾我五郎。北条時政。烏帽子子。のち故
 時の字と名のり。のち
 幼名御房丸
 出家而号禪師房
 ○京小次郎信俊。祐成時政の同腹の
 兄弟。其河津の胤。小次郎の系
 圖。小載也

世話子字文具注抄

全一冊 近刻

首書 繪入 實語 教講 釋 松川

畫圖并略註 松川霞居半山

元治紀之新解

心齋橋小久太記の北口八

河内屋喜兵衛

活花士林 南本町小口八

榮田仲功 河内屋 平七

